

令和2年度第2回光市行政改革市民会議【要旨】

開催日時 令和3年3月18日(木)

13時15分～15時

開催場所 市役所本庁大会議室1、2号

1 部長あいさつ

皆様、こんにちは。

昨年4月に、政策企画部長を拝命いたしました岡村でございます。

皆様方におかれましては、大変お忙しい中、この行政改革市民会議にご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。

令和2年度におきましては、新型コロナウイルスの影響により、会議も書面開催を余儀なくされ、皆様に会議でご意見を述べていただく場も十分にとることができませんでした。この点は大変心苦しく、また申し訳なく思っていますが、今回は、いずれにせよ任期の最後の会議ということになります。

ご覧のように様々な感染対策を講じながら、今日は会議を開催をさせていただきますとともに、皆様から、行政に対する様々なご意見を直接いただければと思っております。

皆様におかれましては、この第8期の行政改革市民会議の委員といたしまして、本市の行政改革を具体的に推進する指針となります行政改革大綱、また公共施設マネジメントの指針となります公共施設等総合管理計画の進捗管理等に対しまして、様々なご意見をいただいて参りました。

本日は、今年度、苦心して作りました新年度の予算の概要、厳しい予算の中で進めていきます行政改革の取り組み、こういったものを皆様方に説明をさせていただければと思っております。

併せて、公共施設マネジメントの進捗状況につきましても、現在までの状況をご説明をさせていただければと思っております。

また、私どもの説明に対しまして、率直なご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

今年度の予算編成は、先ほど申しましたように新型コロナの影響で、大変厳しいものとなったわけでございますけれども、コロナ禍のこうした状況の中であるからこそ、行政改革を進めていく必要があると思っております。本市の目指す行政改革、これは行政コストの削減と市民満足度の両立を目指して参る所存でございますけれども、皆様方のお力もお借りしながら、市長が掲げている「ゆたかな社会」を支えられる行財政基盤を構築すべく、努力をして参りたいと思っております。

本日、皆様方には2年間の総括ということで、様々なご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

2 議題

(1) 令和3年度の予算(案)と行政改革の取組みについて(報告)

令和3年度の予算(案)と行政改革の取組みについて、事務局が報告した後、各委員からご意見、ご提言を受けるとともに、意見交換を行いました。

【委員意見及び事務局回答要旨】

委員

地域公共交通計画策定事業についてですが、県道及び国道沿いの公共交通は充実していると思います。しかし、山間地域や中山間地域、あるいは団地の中に住んでいる高齢者は、買い物や病院へ行くための公共交通手段に困っています。自助や共助で何とかやっていますが、公助の面での予算措置等についてはどうなっていますか。

事務局

公共交通については、市長自身も市の一番重要な課題であると申しておりますし、本日ご臨席の議員の皆様からも大変関心を寄せていただき、様々なご意見・ご提言をいただいております。令和3年度は新規に協議体を立ち上げ、その中で地域の公共交通のあり方について検討していくこととしております。協議体は、中山間地域の方や交通事業者、各関係者の方で構成され、公共交通のあり方について協議がされていることになっています。自助、共助、公助という話がありましたが、自助や共助にもお願いをしなければならない部分もありますが、どのように行政が関わり支援をしていくべきかも一緒に考えていくことになって思っています。

委員

中山間地域等に対する対策は今後していくということですか。そのような地域にお住いの方の生活がかかっていますので、早急に対応していただきたいと思います。少子化に対する対策はできていますが、山間地域に住んでいる高齢者は見放されているようにも感じます。

事務局

公共交通については、新年度には新しい部署も作って取り組む予定です。スピード感をもって取り組んで参りますのでご理解をお願いします。

委員

光ブランド創出事業について、新しい商品に対して補助金が出るというものだったと思いますが、商品名に必ず「光」を入れなければならないという条件があったと思います。光市の事業なのでそれは大事だとは思いますが、パッケージの全体的なイメージで光市をPRできればよいなど、もう少し柔軟に地元企業が使いやすいような制度にしていればと感じます。

また、大和地域では空き家が相当数増えていますが、そこで創業したいという方に対し、商工会議所等のセミナーを継続的に受け、認定を受ければ補助金を受けることができる等の条件で家賃補助のような支援策などの、新しいことを始めようとする方々の背中を押し上げるような制度があればと思います。

事務局

光ブランド創出事業については、「光」の名前を入れていただきたい思いはあるのですが、使いやすい制度にすることも考え方の一つと思います。財政当局としても、光ブランドが幅広く広がって、商品が売れることが本来の願いですので、今頂いたご意見は、担当所管課に報告し、検討してもらおうよう依頼します。

空き家という課題については、市としても認識しております。ただ今頂いたご意見も含めて現在検討中ですので、今後考え方を整理し、良い施策を打ち出せればと考えています。

委員

光駅拠点整備事業ですが、現在拠点事業整備基本構想検討会議等やパブリックコメントで様々なアイデアが出ていると思いますが、病院跡地について、用途地域の変更は可能なのでしょうか。

また、今年の4月に有志の団体による虹ヶ浜のなぎさ公園でのイベントが予定されていますが、そのような病院跡地で民間事業が入ってくるような活力あるイベントや店舗のシェア、面白い自動販売機を並べる、光セレクションの商品がまとめて販売できる場所などのフリースペース、交流プラザのようなものが光駅の近くにあれば面白いと思っています。市としては、たくさん意見がある中でどのような構想段階にあるのでしょうか。

事務局

病院跡地については、用途地域の変更は県の管轄となりますが、変更は難しいと認識しています。現在、跡地は広く民間等を対象に売却する手続きを進めているところです。

光駅拠点整備事業について様々なアイデアをいただきましたが、駅南口周辺は、駐車場の整備と合わせて、例えばイベント広場や商業的な機能のような賑わいを創出するための空間整備をイメージしています。そのような整備するにあたり民間事業者の参入可能性などを国の補助事業を使って今後1年調査をしようとしています。

委員

病院は来年度解体すると認識しているのですが、虹ヶ浜にある病院よりも古い市営住宅と一緒に崩した方が予算面で経済的だと思うのですが、どのようにお考えですが。

事務局

病院を所管する病院局と市営住宅を所管する市では会計を別にしておりますため、病院の解体は原則、病院局で進めることとなります。市営住宅は市営住宅等長寿命化計画に則り計画的に解体を進めていくこととなります。

委員

市街から光市に人を集める手段が少ないと思います。病院跡地を是非活用して賑わいや子供たちが自由に遊べる公園や芝のスペース、お酒が飲める飲食店などがあれば、病院跡地は駅から近いので、電車で市外からの集客が見込めると思います。

事務局

ご提言ということで受け止めさせていただきます。

(2) 公共施設マネジメントの進捗状況について（報告）

公共施設マネジメントの進捗状況について、事務局が報告した後、各委員からご意見、ご提言を受けるとともに、意見交換を行いました。

【委員意見及び事務局回答要旨】

委員

縮減率について、防災指令拠点施設が建設されるため目標の達成が難しいと今の段階で言っているわけではなく、当面の課題として、計画策定当初に想定していなかった建物の建設事案があるという意味ですか。

事務局

最終的な削減目標である20%削減を現時点で変更する予定はありませんが、計画策定後に発生した平成30年7月豪雨の発生により防災指令拠点施設を建設することになり、前期目標8%削減に対し、事務局が想定していた方向で削減が進んでいないということです。

(3) 第4次行政改革大綱策定に向けての提言

退任される委員の方から、これまでの市民会議や第3次行政改革大綱の策定に関わった経験を踏まえ、第4次行政改革大綱策定に向けてのご提言をいただきました。

委員

行政改革はハードルが高く感じましたが、様々な要望をすることで、改革に繋がっていくのではと思います。第4次行政改革大綱策定にあたっては、綿密な計画を立て、改革を一步一步頑張っただけであれば、住みよい町になると期待しています。

人口減少や空き家対策として移住定住事業は大変な事業と思いますが、人口増加に期待します。

高齢化により、農業や漁業が衰退していますが、魅力をPRして欲しいと思います。

市営バスの更新事業ですが、市民から不満の声が出ていることから、地域住民と意見交換をし、地域の実状に合った検討をしていただきたいと思います。

旧市立病院については、老朽化が進むと同時に、雑草の繁茂が目立ち環境が悪化していることから、近くを通ると憂鬱になります。どのような対策がなされるのでしょうか。

事務局

市営バスの更新については、市営バスの車両の更新ということです。新しい市営バスは小型化した上で、ステップをつけるなど高齢者の方でも乗りやすいバスに更新する予定です。

委員

私は大和地区に住んでいるのですが、任期を振り返ると、岩田駅前のコンパクトシティ事業が進んでいることを大変嬉しく思っています。また、大和コミュニティセンターも完成し、市営住宅も完成に向かっています。ハード面において新しいものができることは素晴らしい

いのですが、そこに住む住民の心、ソフト面にも目を向ける必要があると思っています。第4次行政改革大綱策定では、物心両面、住民が何かやりたいと行動を起こす際に、市が後押ししていただけるような内容も入れて欲しい。先程、他の委員の方も仰っていたが、賑わいの創出、楽しいところにしか人は集まらないし、人口も増えない。行政改革は縮減や削減といったマイナスのことも必要だが、住民が前向きになれるような事業を打ち出していただければと思います。

事務局

地元の人の背中を押すような、賑わいづくりに資するような施策展開ということですが、行政改革は、コスト削減だけでなく、住民の満足度が伴わないといけないと私たちも重々承知をしておりますので、事業を展開する上では、市民の方々の満足度を意識しながら進めていきたいと思っています。

委員

2点申し上げます。1点目は先ほども申し上げましたが、中山間地域や団地の公共交通についてです。中山間地域や団地にお住まいの高齢者は公共交通の便が悪く、自分で買い物や通院等の外出に困っている。現在は、家族や近所の方の手助けがあるが、数年後にはそれらの支援を受けられなくなってきました。現在市の行っている施策は、車を貸し出し、ドライバーの年齢や移動範囲を限定して運営するものです。貸し出し等の要件を緩和できないだろうか。また、中山間地域等の地域に対してもっと目を向けて、地域に寄り添った施策を検討していただければと思います。

2点目は、市はコミュニティの活性化や地域の伝統文化の継承に対し施策を実施しておられ、地域住民としても力を入れていこうと思っています。一方、コミュニティセンターのほとんどが築50年を超えてきており、建て替えの時期にきていると思いますが、コミュニティセンターが地域に適正に配置されているのかが疑問に思います。一度建替えてしまうと、50年は使用しないといけないので、考えるなら今しかありません。今一度、コミュニティセンターの配置について検討をしていただければと思います。

事務局

中山間地域等の公共交通のあり方及びコミュニティセンターの適正配置については、仰るとおりだと思います。人口減少が進む中での地域の変化を考慮し、また所管課とも思いを共有しながら検討を進めていきます。

委員

市が実施する事業はどれもこれも必要な事業で、何かに特化するということは難しいということが良く分かりました。様々な事業を行う中で、市の予算の都合がある事は分かるのですが、例えばネーミングライツを導入してはどうでしょうか。近隣では、スポーツ施設に導入しています。光市では導入の検討をしたことがありますか。

事務局

ネーミングライツの導入実績についてのご質問ですが、導入実績はありません。どの施設なら企業のニーズがあるのか、企業の求めるイメージに合致する施設はあるのか等の整理や研究をする必要があります。

委員

地域包括センター運営事業ですが、基幹型センターはあいぱ一くに設置し、委託センターは市が民間に委託し2か所設置するというのでしょうか。ますます高齢化が進む中で、高齢者に対する地域の支援は非常に大切になってきます。包括支援センターに配置される人材の能力向上や必要な時に必要な支援を受けることができる仕組みが大切になると思います。

一方で、どの事業も大切だと思いますが、コロナ等の影響で市の歳入が減少することで、様々な事業に予算面で影響すると思います。その点が心配です。

事務局

これまで地域包括支援センターは、あいぱ一くに一カ所設置し、市内全域をカバーしておりましたが、今後はあいぱ一くを基幹型とし、それとは別に市の東西にランチとなるような委託センターを設置し、計3か所で市内全体を見ていくこととなります。そのことで、よりきめ細かなサービス提供ができるものと考えています。

委員

乳幼児・子ども医療費助成事業について、以前この場で近隣市に比べて無償化の対象が狭いと発言をしたことがありましたが、このことについて、中学校3年生までの所得制限が撤廃されることになったことに一番の変化を感じました。このような場で様々な意見を言うことで、それが施策に反映されたら良いと感じています。ただ、依然として市役所と一般市民の感覚には差があると感じています。たくさんの事業を掲げて素晴らしいと思いますが、どこまで市民のために、生活のしやすさに繋がっていくのかということを見ると、この場で私たちが発言をしっかりして、それを聞いてもらう事が重要ですので、第4次行政改革大綱策定に向けても、意見を言うことが必要であると感じています。

事務局

乳幼児・子ども医療費助成事業について取り上げていただきました。引き続き、委員さんの意見も取り入れながら新しい行政改革大綱策定やまちづくりに取り組んでいきます。

委員

3点、次期大綱に盛り込んでいただきたいことがあります。1点目は、一般家庭の貯金に相当する、財政調整基金の積立額を30億円にするためにはという視点で政策に取り組んで欲しいです。

2点目は、職員の労働生産性を上げるためのIT化の取組が必要だと考えます。また、IT化には予算が伴いますが、しっかりとした方向付けのもとに予算化が必要です。

3点目は、高齢化と人口減少への対応策です。派生的な問題として公共交通機関の問題や空き家対策等多岐にわたりますが、全ては高齢化と人口減少の問題として考えることができます。

事務局

3点の貴重なご意見をいただきました。高齢化や人口減少問題を避けてはまちづくりを考えることはできないと思っておりますので、そのことを踏まえて次期行政改革大綱や新しいマスタープランの策定に取り組んで参ります。

(4) その他

任期を終えるにあたり、市民会議への感想、行政改革の取組全体への意見について、委員に発言をお願いしました。

委員

次期もありますので、引き続きよろしく申し上げます。

この会議に臨んで思ったことは、市では様々な良い事業を展開しているにもかかわらず、多くの市民に周知されていないのではということです。市は広報に掲載したり等周知に努めていると思うのですが、他にも様々な媒体を活用して更なる周知を図った方がよいのではと思います。

コロナ対策では、支援金の一律給付はやりやすいと思うのですが、飲食関係でも過分にもらう場合やもっと必要とする場合もあるため、きめ細かな対応ができるような仕組みもあってよいのではと思います。

先ほど別の委員も仰っていましたが、病院の解体の際に病院局と市では会計が異なるので市営住宅との一体的な解体は難しいという話がありましたが、市民からすればもっと柔軟に対応することで、予算の経済的な使い方ができるのではと思っています。

委員

人口減少は避けては通れません。人は楽しい場所でないと住まないし、集まらないので、その視点を引き続き持って行政運営をしていただきたいと思います。

委員

明るい住みよい光市になるように取り組んでいただきたいと思います。そうすることで、子ども達も光市に帰って住もうという気持ちになり、人口も増加していくのではと思います。また、就職先がないことも光市に戻りたくても戻れない一因としてありますので、対策をしていただければと思います。

委員

本会議で多くを学ぶことができました。

私は息子が不登校になり、親子ともに疲弊した時期がありました。学校やかかりつけ医に相談をしながら無事困難から脱却できました。相談する中で、子どもはらせん階段を上るように成長していくため、前面にいる時もあれば背面にいる時もあるが、その場所での滞在時間は人それぞれであると言われ、納得をした経験があります。市内には同じような悩みを抱えている方がおり、引きこもりの人たちのためのカフェもあり、力を入れていると思っていますが、大人になってから引きこもりになった方たちも救っていただけるような支援策にも取り組んでいただきたいです。

委員

市民が住みやすくなるような施策に注力して欲しいと思います。

病院の跡地利用については、市民が住みやすい場所にする、人を集める施設を作るにしても、病院の管轄だからとことにせず、市民のためにという視点で取り組んでいただきたいです。また、光と言えば海ということで、駅から海が近い立地は他にないので、よ

く考えて取組を進めていただければと思います。

委員

たくさんの良い事業がありますが、どれも大切ですので、どんどん前向きに進んでいけばよいと思います。

私は結婚サポートの仕事をしていますが、光市と近隣市の方が結婚しても近隣市に住む方が多いのでとても残念に思います。光市は住みやすいし、乳幼児・子ども医療費の無料化の対象も拡大したので、光に住んで欲しいなと思っています。

また、他の委員も仰っていましたが、市民が市の活性化のために何か挑戦しようとしている時に、市が後押ししてくれるといいなと思います。

委員

子育て世代にとっては、医療費の助成等も充実していて子育てがしやすい町と思って子育てをしてきました。しかし、大学に進学したタイミングで子どもは帰ってこなくなります。都会の方が便利で、光市よりもしたいことが出来、活動の範囲も広いため仕方のないことだとは思いますが。光市は子育てしやすいですが、子ども達が外に出てしまい帰ってこず、人口減少をたどる原因はそこに帰着してしまいます。高校を卒業するタイミングの学生達にどういう光であれば戻ってきたいと思えるのかを細かく拾ったり、どうなれば光に戻ってきたいと思えるかの意見を幅広く聞いていく事は必要だと思います。

光市は自然に囲まれ海もきれいで空気もおいしいし、そんな場所で子育てができることはすごく良いことです。そのことを外にアピールして人が来ていただけないと高齢者の町になってしまう危惧はあります。

委員

若者の流出のことを踏まえてですが、光駅拠点整備の中で若者がワークショップの中で様々な発言をしています。このことに対して早く結論を出さないとまたその若者たちが流出してしまうと思います。市としては早く動いていただきたいと思っています。

また、民間事業の活用をした方がいいと思います。先ほど申しましたが、4月25日に虹ヶ浜にあるなぎさ公園でイベントが開催される予定ですが、県内県外の様々な企業が出展され、非常に楽しそうなイベントです。子どもから大人まで都会の洗練されたものが少しでも感じる事が出来るようなイベントですが、虹ヶ浜を使ったそのようなイベントがもっとあればと思います。

委員

公共施設等総合管理計画について協議した際に、全国の光市と同規模の自治体と公共施設の量を比較しました。光市は非常に多くの公共施設を保有しており、特に学校関係と市営住宅が突出していました。私は、光市公共施設等総合管理計画の中で床面積の20%削減という方針を出したことが非常に印象に残っています。私は家の周辺を散歩することがあるのですが、解体されて更地になった市営住宅の跡地を見た時に、光市も着実に取り組んでいるなど実感しました。今後も、削減に向けて頑張っていただきたいと思っています。

事務局

改めてお礼を申し上げます。皆様には公私ともにお忙しい中、本会議へのご出席いただき

誠にありがとうございます。

本日も、委員の皆様からはさまざまなご意見やご提言等をいただきました。以前から頂いたご意見等の中には、財源的な問題等で施策に反映できなかったものもございますが、引き継ぐべきものは今後の課題として新しい行政改革大綱策定の中で検討をしていきたいと思っています。

本日をもって退任される委員もいらっしゃいますが、皆様一人一人が市民である事には変わりはありません。今後とも様々な場面で私どもにご意見等をいただければ幸いです。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

6 その他

事務局から、今後のスケジュールについて事務連絡がありました。